

令和4年第10回大竹市教育委員会

1 開催日時 令和4年10月28日（金）15時00分開始

2 会 場 大竹市役所3階大会議室

3 出席及び欠席委員	教育長	小 西 啓 二	出席
	1 番	池 田 良 枝	欠席
	2 番	中 田 美 穂	出席
	3 番	小 出 哲 義	出席
	4 番	小 城 和 之	出席

4 出席職員	総務学事課長	貞 盛 倫 子
	総務学事課	重 安 千 陽
		瀬 川 隆 司
		横 峰 路 子
		錦 戸 宏 泰
	生涯学習課長	吉 村 隆 宏
	生涯学習課	安 藤 好 博
		加 藤 豪

.....

【開会時刻 15時00分】

小西教育長 定足数に達していますので、これより令和4年第10回大竹市教育委員会会議を開会します。

はじめに、議事録署名委員を指名します。議事録署名委員は、大竹市教育委員会会議規則第15条第2項の規定により、中田委員を指名します。

これより本日の日程に入ります。

日程第1「会期の決定について」を10月28日一日限りとします。これに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって会期は本日一日間と決定しました。

議案第33号 大竹市文化財審議会委員の委嘱について

小西教育長 日程第2「議案第33号 大竹市文化財審議会委員の委嘱について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 本議案は、「大竹市附属機関設置に関する条例」第3条の規定に基づいて、大竹市文化財審議会委員を委嘱するものです。

まず、はじめに、大竹市文化財審議会の担任する事務についてですが、「大竹市文化財保護条例」に定める文化財の保存及び活用に関する専門事項及び技術的

事項の調査審議」となっています。

このたびの議案は、提案理由にもあるように、大竹市文化財審議会委員の任期満了に伴い、委嘱するものです。

委嘱しようとする委員ですが、現在就任している7名全員が、いずれも再任となります。

当該7名の委員について、大竹市付属機関設置に関する条例に基づく委員構成の区分と、氏名を委員就任通算期間の長い順に読み上げます。文化財に関する高い識見を有する者である島崎陽子様、同じく木村武臣様、学識経験者の石田雅春様、同じく二階堂百合子様、同じく山本竹生様、文化財に関する高い識見を有する者である二階堂直様、同じく恵谷泰典様です。

なお、任期につきましては、令和4年11月1日から令和6年10月31日までとなっています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結します。本件を採決します。
本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

報告第18号 職員の人事異動について

小西教育長 日程第3「報告第18号 職員の人事異動について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和4年9月30日付けで発令した職員の人事異動につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第18条第7項及び第25条第2項の規定により、教育委員会において決定すべきですが、緊急を要し教育委員会の会議を招集する時間的余裕がなかったため、教育長において臨時に代理し発令したものです。このたびの人事異動は、総務学事課の三家本教之主任が9月30日付けで、総務部総務課付けとなったものです。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結します。本件を採決します。
本件は報告事項です。報告のとおり承認することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認されました。

協議・報告事項 令和4年度学力調査の結果について

小西教育長 日程第4「協議・報告事項 令和4年度学力調査の結果について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和4年度の全国学力・学習状況調査は、令和4年4月19日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に、国語・算数・数学及び理科の3教科で実施されました。

まず、平均正答率です。小学校は、国語の正答率が高く、県及び全国平均を大きく上回っています。一方で、算数は、県及び全国平均を少し下回っており、理科は県平均と同数値、全国よりは高くなっています。

中学校は、3教科ともに、県及び全国平均を下回っており、中でも数学が、県・全国との差が大きくなっていることが課題です。

これらの調査結果を受けて、今後に向けてということで、学力向上につながる授業づくりに向けて、今後、特に取り組むこととして、次の3点を挙げています。

1つ目は、基礎的・基本的な学習内容の定着です。定着に課題のあった学習内容について、該当の学年だけでなく、そこにつながる学習についても、関係学年で系統的に、繰り返し指導を行うようにしていきます。

2つ目は、思考力・判断力・表現力を付けることです。授業に課題発見・解決学習を取り入れ、課題解決に向けて、思考・判断・表現する場を設定することで、3つの力を身に付けることを目指します。

3つ目は、「できた」「わかった」と感じる授業づくりです。授業のめあてを明確に示し、この授業で何ができるようになったらいいのかを児童・生徒と確認した上で、授業後に「何がわかったか」「どんなことができたようになったか」といった丁寧な振り返りを重ねていくことで、児童・生徒が「できた」「わかった」と感じ、主体的に学んでいこうとする意欲を高めていきたいと考えています。

教科に関する問題の調査結果の概略です。

小学校国語では、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけたりする問題で正答率が低い結果となりました。

正答率下位2問は、どちらも3つの条件に合わせて考えを書く問題で、資料文から言葉や文を取り上げて、決められた字数以内で書くよう指定されています。全国的にも正答率が低い問題で、どちらも県・全国の結果よりは高い結果でしたが、全問中32の正答率が最も低くなっており、条件の1つである「書き直した文章のよさを書く」ことに難しさを感じたのではなかとと考えています。

小学校算数です。算数では、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題や、示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題に課題がありました。

正答率下位2問のうち1つは、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問うもので、もう1つは、 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを、概数で計算して求める問題でした。割合の理解、条件に合わせた概数の選択に課題があるといえます。

小学校理科です。理科では、日光が直進することの理解を問う問題や、問題に対するまとめが「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる」となるわけを、問題の視点で分析・解釈し、自分の考え

を記述するという問題に課題がありました。

中学校です。中学校国語では、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題や、表現技法についての理解に課題がありました。

正答率が低い下位2問のうちの1つは、意見文の下書きに、2つの条件に沿ってスマート農業の効果を書き加えるもので、小学校と同様に、条件に沿って自分の考えを書くことに課題がありました。

続いて、中学校数学です。数学では、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだして説明したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明したりする問題で正答率が低い結果となりました。

その問題は、「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる」ことが成り立つことを受けて、これ以外に2つの偶数の和がいつでも4の倍数になる場合を自分で考え、「～は、…になる」という形で答えるというものです。また、2つの三角形が合同であることを証明し、そのことを利用して、違う図になっても、1つの角がいつでも 60° となることを説明するというものです。前提となる合同の図形の条件を利用して、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに難しさを感じたのではないかと考えています。

最後に、中学校理科です。理科では、「化学変化」と「エネルギー」を柱とする領域で、それぞれの知識及び技能を関連付け、必要なものを分析・解釈する問題や、力の働きに関する知識及び技能を活用し、物体に働く重力と釣り合う力を矢印で表し、その力を説明する問題で、正答率が低い結果となりました。

各学校では、学力調査の結果を受けて、自校の課題分析を行い、改善計画を立て、学力向上に向けての取組を進めているところです。

教育委員会としては、今後、各校の改善計画に沿った取組について、支援や指導を行うとともに、先に説明した、授業改善に向けての3つの視点についても繰り返し指導を行いながら授業改善を進め、大竹市全体の児童・生徒の学力向上を図っていきたいと考えています。

小西教育長 令和4年度の全国学力テストの結果です。これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

小城委員 どの学校もそうだと思うのですが、広島県や全国の結果よりも下回っている問題に対して、児童・生徒達は悔しがっているのでしょうか。あとは、先生方が同じような感覚があるかどうかだと思います。点数が良ければ良いという訳でもないですし、悪いから悪いという事ではなく、普段から受けている授業に対して、先生、児童・生徒がどう捉えているかということも大事な要素だと思います。そこをヒアリングして、重点課題と改善に向けての取り組みを進めることが出来ているのかを、合わせて確認していかないといけないと思います。何に取り組むかというのが大切なことですが、結果に対してどう思っているのか教えてください。

事務局 生徒の反応までは分かりませんが、この結果を受けて、こんなことじゃいけないと一念発起してほしいと思います。学校につきましては、個々の学校の結果もありますので、全国、県平均を下回っているものに対しては、大きな課題と捉えて学校として取り組みを進めていくと思います。教職員で問題の分析をしたり、今後の取り組み方針として共有をしたりして、教科毎に取り組んでいけたら良い

なと思っています。改善計画を出していますが、作って終わりでは意味がないので、授業改善に生きているかどうかを、教育委員会も学校訪問の際に進捗を確認しながら、学力向上を向けて支援、指導していきたいと考えています。

中 田 委 員 毎 回 結 果 を 聞 い て、い つ も つ ま ず い て い る 問 題 が、最 後 の 説 明 文 で、自 分 で ま と め て 書 く と い う と こ ろ な の で、書 く 力 に 抵 抗 感 が あ る の だ な と 感 じ ま し た。原 稿 の ま す 目 を 見 た 状 態 で、「う わ」と 思 う 子 ど も も 多 い と 思 い ま す。そ も そ も、こ の 問 題 を 見 た 時 点 で、拒 否 感 が 出 て し ま っ て、最 後 だ し も う い い や と い う よ う な、投 げ や り な 子 ど も も い る で し ょ う し、大 竹 中 学 校 の 最 後 の 分 析 の「一 日 当 た り ど れ ぐ ら い ス マ ホ や テ レ ビ を 使 っ て い る か」と い う と こ ろ で、圧 倒 的 に ス マ ホ な ど で ゲ ー ム を す る 時 間 が 増 え て い ま す。私 た ち も そ う な の で す が、日 頃 か ら 字 を 書 く と い う 行 為 が 格 段 と 減 っ て い ま す。書 く 力 と い う の は、絶 対 に 大 切 だ と 思 い ま す の で、朝 読 等 の 時 間 で、「短 い 文 章 を み ん な で ま と め て み ま し ょ う」と い う よ う な 事 を 反 復 し て い く 事 で、書 く 事 へ の 拒 否 感 を 減 ら し て い く、日 常 の 中 で そ う い っ た 取 り 組 み を し て い く し か な い の か な と 思 い ま す。数 学 も い ろ い ろ な 問 題 の 中 で、書 く と い う と こ ろ が 引 っ か か っ て し ま う の だ な と こ こ 数 年 で よ り 感 じ て い ま す。点 数 で は 判 断 で き な い と こ ろ も あ り ま す が、結 果 と し て 出 て き て い る た め、検 討 し て い く こ と も 必 要 だ な と 思 い ま し た。

事 務 局 書 く と い う こ と に つ い て、字 数 制 限 や 決 め ら れ た 条 件 で 書 く と い う こ と は、こ こ 数 年 の 課 題 で す。学 校 で も こ れ を 受 け て、国 語、算 数、理 科 だ け で な く、日 々 の 授 業 の 中 で 字 数 を 決 め て 書 く と い う 事 や、あ る い は 条 件 を 決 め て 書 く と い う 事 を、高 学 年 だ け で は な く、そ れ ぞ れ の 学 年 の 発 達 段 階 に 合 わ せ て 取 り 入 れ る よ う に、教 員 が 心 が け る よ う に し て い ま す。ま た、中 学 校 に つ い て も、全 国 学 力 テ ス ト の 結 果 以 外 の 教 科 の と こ ろ で も、こ う い っ た と こ ろ を 意 識 し て 考 え て 書 く、書 い た こ と を 交 流 す る、表 現 す る と い う よ う な 学 習 活 動 を 取 り 入 れ る よ う に し て い ま す。中 間 テ ス ト、期 末 テ ス ト で そ う い っ た 問 題 を 増 や し て、生 徒 が し っ か り 力 が つ け ら れ る よ う、日 々、取 り 組 み を 進 め て い る と こ ろ で す。下 位 2 問 に つ い て で す が、小 学 校 の 無 回 答 率 を 見 た と こ ろ、前 回 よ り 無 回 答 率 が 減 っ て い ま す。正 答 率 が 高 い わ け で は な い の で す が、頑 張 っ て 書 こ う と し た 子 ど も た ち は 増 え て お り、こ れ ま で の 地 道 な 努 力 が ち ょ っ と ず つ 子 ど も た ち の 力 と し て 現 れ て き た の で は な い の か な と 思 い ま す。今 後 と も、し っ か り と 取 り 組 み を 続 け て い き た い と 思 い ま す。

小 出 委 員 確 かに、一 日 の 時 間 の 中 で、子 ど も た ち が 自 宅 で ス マ ー ト フ ォ ン や ゲ ー ム を す る 時 間 が、か な り の ウ ェ イ ト を 占 め て い る 家 庭 も 多 い の で は な い か な と 思 い ま す。な か な か 親 も 直 接 子 ど も に 言 い に く い と い う よ う な と こ ろ も あ る の で は な い の か な と 思 い ま す。そ の た め、直 感 的 な 問 題 を 解 く 事 が 得 意 な 子 は 多 い か も し れ ま せ ン が、じ っ く り 考 え て 解 く 問 題 が 苦 手 な 子 が 増 え て い る の で は な い か な と 思 い ま す。小 学 校 6 年 生 と 中 学 校 3 年 生 と い う 重 要 な 時 期 の 学 力 検 査 で こ う い っ た 結 果 が 出 て、県 や 全 国 平 均 を 下 回 っ た と い う 事 で、非 常 に 深 刻 に 受 け 止 め な い と い け な い と 思 い ま す。こ の 事 に つ い て は、今 回 の 学 力 調 査 で 初 め て 分 か っ た こ と で は な く、以 前 か ら こ う い っ た こ と が 苦 手 な 子 は 多 い と 思 い ま す の で、今 後 の 対 策 に つ い て も、去 年 の 対 策 で な か な か う ま く い か な か っ た の で、今 年 は こ の よ う に 改 善 し て み よ う と い う よ う な 検 討 が あ っ て も 良 い の で は な い か な と 思 い ま す。普 段 の 学 習 状 況 を 見 て、子 ど も 達 の 苦 手 分 野 は 分 か っ て い る と 思 う の で、今 後 の 具 体 的 な 取 り 組 み に そ う い っ た と こ ろ を 組 み 込 ん で も 良 い の か な と 思 い ま す。

小西教育長 本日の中国新聞に福山市の結果が出ており、2年続けて県で最下位であったという記事がありました。「決して競争ではないが、そういった結果がマスコミに掲載される事もあるので、学校としては、自分たちの取組や指導方法がどうだったかという事や、今後どのように取り組んでいくのか決めていく」という内容でした。ただ、社会全体ではそういった見方もありますし、子どもに力をつけていくのが私たちの使命です。しっかり取り組んでいかなければいけないと思います。学校としても、授業改善を意識し取り組んでいってほしいと思っています。総務学事課には、指導主事がいます。授業改善等の指導を各学校に研修を通して伝えていきたいと思っています。

小 城 委 員 全国学力調査に向けて、過去問のようなもので対策しているのか、それとも日常の授業の中で学習しているものの先にあるテストなのか、どうなのでしょう。そういった事は、学校でもまちまちなのではないでしょうか。

小西教育長 市町・学校によっても違うところがあります。

小 城 委 員 やり方が違ったら全国学力調査の考え方それ自体がどうなのかなと思います。テスト対策をして上位にいるからすごい、対策をせずに普通にテストをして点数が低かったら悪いという事も話が違うのではないかなと思います。個人的には、受けるのであれば点数が高い方が良いのですが、何かに対して対策をするというのは、小学校・中学校・社会人になっても一緒だと思います。結果を求めていくのであれば、事前の対策は必要になってくると思うので、先生方の負担があまり増えないような方法でやって頂けたらなと思います。

事 務 局 全国学力学習状況調査の点数を上げるために、過去問を洗い出してひたすら繰り返し練習をするというのは、目的と外れてくるので違うと思うのですが、小城委員のご意見のように、課題となるところは大体毎年同じようなところが手を変え品を変え問題になっていたりします。そういったことを踏まえて、教える側がしっかり教えておかないといけないという事で、担当の教科の中でしっかりと教えています。小学生は、初めて見る問題がこれだけのものであると、テストとして受ける力が足りない事もあるので、大体1回はどのような問題か体験させて、テストに臨ませるのは必要なことではないのかなと考えています。

中 田 委 員 今の意見に関連しているのですが、とある県では、テストの対策にすごく力を入れているという話を聞いた事があります。それに向けてただ問題を解いていく、対策をしていくというのは、私も少し違うのではないかなと思います。先程の無回答率が下がっているという結果は、私はすごい成果だなと思います。点数だけではなく、そこに取り組もうとする姿勢は、課題に対して先生達のアクションがあり、それを子どもたちがちゃんと受け止めているというのは、たとえ点数が上がってなくてもそういったところは子ども達や先生方が頑張ったからだと思いました。

小 出 委 員 確かにこの学力調査で、全国の平均を良いものにしたいからという理由で、そこに向けて勉強するというのはどうかなと思います。その延長に受験があるので、苦手な問題は何度も繰り返し解いてなんとかするというような指導も必要ではないかなと思います。あと、家庭の経済状況にもよりますが、塾に通っている子、通っていない子、あるいは個人指導がついているお子さんもいるため、その辺りで結果に差が出ているところもあるのかなと思います。都市部と大竹との地域差もあるとは思いますが、その辺りはどうなのでしょう。今の小学校6年生や中学校3年生は、どのぐらいの割合で塾に通っているのでしょうか。

事務局 どれぐらいの子どもが塾に通っているかについては把握していませんが、先程の基礎的なところについては、繰り返しの学習が必要ではないかというところはまさにその通りで、特に今回、中学校の数学の正答率の方が低くなっており、そこを分析すると基礎的な学力の定着にも課題が見られましたので、ここについては、指導の中に基礎的な学力をつけていくことを入れていかないといけないと思っています。

小城委員 このテストに伴ってというところではないのですが、普段生徒・児童達はちゃんと座って授業を受けているのでしょうか。テストを受け始めたら落ち着かなくなってきたとか、そういった子がいるのかどうか分かりませんが、無回答が減ってきたというのは、我慢強く着座をしてテストを受けることが出来ているのかなと思います。これをきっかけに、普段の授業を先生達が困ることのないように受けれたらなと思います。

小西教育長 児童・生徒達は落ち着いています。ただ、教師によりますが、何十年も授業をしていたら指導方法が固まってくる傾向があります。時代も子どもも変わっているなか、変わらないのは教師の指導方法、つまり授業を変えることができないことが教師の課題となるため、授業改善に向け指導して参ります。学校には、しっかりと教育委員の考えも伝え、大竹の子ども達の力をつけていきたいと思っています。今後また、お気づきの事があればご意見いただきたいと思っています。他に質疑や意見はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 ないようですので、協議を終わります。

小西教育長 以上をもって、本日の日程は全て終了しました。

なお、本日の会議の議事録を作成するにあたり、各議題の審議内容について、字句、数字、その他の整理を要するものについては、その整理を会議の議長に委任されたいと思います。異議ありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、字句、数字、その他の整理は、議長である教育長で行います。

これにて、令和4年第10回大竹市教育委員会会議を閉会します。

【閉会時刻 15時40分】

.....